

【基本情報】

改組予定年度：令和8年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：地域創造学部（予定）
入学定員：【R8新設】100名
所在地：北海道旭川市

【地域創造学部で育成する人材像】

1. 「**数理・データサイエンス・AIと工学およびマネジメントの知識を併せ持った地域イノベーション人材**」
～地域や社会に横たわる様々な課題に対し、デザイン思考を基に、数理・データサイエンス・AIをはじめ、工学やマネジメントの知識を活用し、論理的な思考力と洞察力を深め、他者と協働しながら豊かな発想力で新たな価値を創造していくことができる人材
2. 「**アントレプレナーシップを発揮しスタートアップする人材**」
～地域や自分自身の経営資源を的確に把握し、社会課題に挑戦するスタートアップ人材
3. 「**企業や行政機関などのプロジェクトリーダーとして活躍する人材**」
～企業や地域の課題や達成すべき目標を的確に把握し、解決していくチームをつくりだせるリーダーシップを持った人材

※「数理・データサイエンス・AI」とは、文部科学省が認定している教育プログラム
※「アントレプレナーシップ」とは、新しい事業に果敢に取り組む精神や姿勢
※「スタートアップ」とは、革新的なビジネスモデルによって社会にイノベーションを起こすこと

【地域内で連携した教育体制の構築】

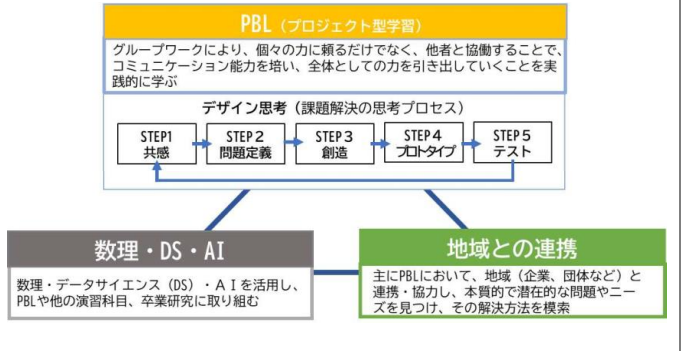
1. **企業や自治体との連携**
市内関係団体等の会員企業と連携し、各社の課題等をテーマとしたPBL型授業や、旭川市と近隣町の自治体職員を講師として、地域の課題、将来展望などに関して、**双方向型授業やPBLを複数開講**
2. **地域の研究機関との連携**
(地独) 北海道総合研究機構の林産試験場と北方建築総合研究所（いずれも旭川市内）の研究者や北海道立北の森づくり専門学院の教員により、地域課題や特性、課題解決例など、**地域に根差した講義を開講**
3. **（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの参画校との連携**
旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川工業高等専門学校とともに、アントレプレナーシップや数理・データサイエンス・AIに関する科目に関し、**遠隔授業、共同授業、単位互換などを実現するための検討を実施**

【外部資金獲得額の上乗せ】

科学研究費補助金について、全学の教員に申請を促すとともに、新学部で採用された教員においては**90%以上が申請**予定。採択実績のある経験豊富な教員による申請指導を実施し、20%以上の採択を目指す。また、企業等の課題や新規事業をテーマにしたPBLを実施することで、共同研究や受託研究を増加を図る

【地域創造学部の学びの特徴】

1. **PBL (Project Based Learning) プロジェクト型学習**
各学年で、**デザイン思考 (DT)**、**データサイエンス (DS)** を活用したPBLを実施。卒業時には、DT、DSを使いこなし、複雑化、高度化した社会の課題解決に貢献
2. **2年後期に専門コースを決定**
地域デザインコースと**アントレプレナーシップコース**あり。2年次の後期にコースを決定
3. **文理融合教育の重視**
理系（工学関連）の地域デザインコース（都市、建築、インフラなど）と文系（経済学関連）のアントレプレナーシップコース（マーケティング、経営戦略など）の科目を**自分の進路に合わせて横断的選択可能**
4. **様々なフィールドでDX人材として活躍**
文部科学省の**数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル、応用基礎レベル）**に対応する教育プログラムを実施。企業に選ばれるDX人材へ



【地域の小中高生や企業の集いの場としての機能】

これまで既存学部で実施していた出張講義に加え、新学部では「IT教室」「起業塾」「未来のまちづくり」などの講義を実施。また、**プロトタイプングルーム**や**PBL教室**を設置し、学生のデザイン思考に基づく試作や、**地域の小中高生が「ものづくり教室」**等を通してものづくりに参加できるように整備。また、**地域の中小企業の試作ルームとしての活用**も検討

令和7年度までに特に力を入れて実施した取組と特徴がある取組

【新棟の建築開始】

1. 地上3階建て、延床面積4,048.67㎡（屋外テラス分52.61㎡は除く）
(令和8年1月竣工予定)
2. イノベーション創出の「場」として設計。「産学官金連携拠点」「地域交流と人材育成の拠点」「スタートアップ創出拠点」としての機能を有す
3. 1Fにコモンズスペースとプロトタイプングルーム、2FにPBLルームを設置



【令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル) に認定】

地域創造学部の設置認可申請時作成したカリキュラムをもとに、本学ならびに短期大学のカリキュラムを見直しし、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を受けた。なお、地域創造学部では応用基礎レベルの申請をする予定

【アントレプレナーシップ教育の実施】

HSFC*が採択されたJSTの「スタートアップ・エコシステム形成支援」に、2025年度から共同機関として参画し、高等学校の探究学習の伴走支援ならびに学生向けアントレキャンプ等の実施



第2回Startup Weekend 旭川(2025年12/5-12/7)



【PR活動の実施】

- ・企業が実施している高等学校の進学相談会の参加 (4月～12月末まで41回)
- ・高等学校からの依頼で訪問し説明会 (4月～12月末まで9校訪問)
- ・高等学校が本学を来訪し説明会 (4月～12月末まで3校来訪)
- ・オープンキャンパスの実施 (5月、8月、9月の3回)
- ・「IT教室」として「AI・IoT・データサイエンスミニキャンプ」の実施 (9月、20名参加)

AI・IoT・データサイエンスミニキャンプ
AI・IoT・データサイエンスの基本的な知識を体験しよう!!

9月23日(水) 18:00～20:00
参加費 無料
対象者 旭川市内の中学生・高校生
開催場所 旭川市立大学 工学部 2F PBLルーム

Anto-Workshop 2025
11月21日(土)～23日(月) 旭川市立大学
参加費 無料
対象者 旭川市内の中学生・高校生
開催場所 旭川市立大学 工学部 2F PBLルーム

【お問い合わせ】 旭川市立大学 新学部設置準備室

〒079-8501 北海道旭川市永山3条23丁目1番9号
TEL 0166-48-3121
E-Mail shingakubu@live.asahikawa-u.ac.jp

設置の目的

複雑化と多様化が進展する現代社会においては、単に個別の専門性を深めるだけでは解決が困難な課題が各所に顕在化している。一方、近年著しい進展を遂げている人工知能（AI）を中心とする情報科学は今後広範な学問領域へ浸透し、分野間の相互連携基盤としても重要な役割を果たすことが期待されている。以上を踏まえて共創情報科学部では、情報科学を共通の知識としてさまざまな分野を融合することにより複合的な社会課題を解決し、地域社会の持続的な発展に貢献することを目的とする。

<基本情報>

改組予定年度：令和8年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：共創情報科学部
入学定員：【R8新設】90名
所在地：長野県上田市

養成する人材像

情報科学を基盤とし、知能、デザイン、環境を横断的に学ぶことにより、人と自然環境が調和した共創社会の創造と実現に貢献できる理工系人材を養成する。



知能コース

AIの基本アルゴリズムとその応用を学び、実際のプログラミングを通して、AIを自分で構築するための基礎知識を学ぶ。

デザインコース

デザインの創造的な思考力、表現力、課題解決力などを学び、共創デザインの実践を通じて実社会で応用するデザイン力を学ぶ。

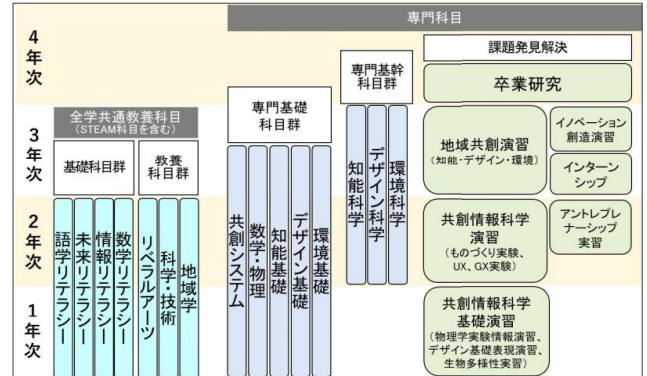
環境コース

生物多様性などの環境評価に必要な各種調査、センシング手法によってデータを収集し、統計モデルによって将来を予測する技術を学ぶ。

学びの特色

- 01 情報科学を基盤とした教育
- 02 3つのコースをつなぐ共創システムの学び
- 03 情報科学を活用した地域課題解決

【カリキュラム体系】



卒業後の進路

情報科学の知識を有する人は幅広い地域や企業から求められているため、情報・通信業界はもちろん、情報技術を活用する様々な業界（製造、建設、小売・物流、医療、農業、金融、観光など）での活躍が期待される。

- 【例】
- ▶ システムエンジニア
 - ▶ ネットワークエンジニア
 - ▶ UI/UXデザイナー
 - ▶ サービスデザイナー
 - ▶ 環境コンサルタント
 - ▶ 環境アセスメント職
 - ▶ 研究開発職
 - ▶ 公務員 など

取組内容 (令和7年度)

「うえだ人材共創スクエア」の取組 (令和6年10月設立) (産官学金コンソーシアム)

目的

上田地域の産業界、金融機関、行政と長野大学が連携し学びの場を共に創ることにより、現在から将来にわたり産業に関わる人材を地域に関わる人材を地域に根差して育成し、地域産業の持続可能で健全な発展に寄与する。

事業

- 上田地域における総合的な人材育成の仕組みづくり
- 長野大学が学びの場を提供し産業界の人材育成を行う
- 新学部が目標とする人材養成に向けた産官学連携の実践 など



活動計画

- ✓ PBLやインターンシップ等の地域協働型教育の計画立案
- ✓ 地域経済団体や産業支援機関と新学部（教員）との連携（交流会、教員シーズ集作成、地域イベント開催 など）
- ✓ 地域企業や教員によるAIを中心とする新学部が取り組む教育研究分野に関する勉強会

会員

(50音順)

名称	名称
産業界	エブソンアヴァンシ株式会社
	株式会社ガリレオ
	城下工業株式会社
	信州ハム株式会社
	有限会社大栄工業
	太陽ゴム工業株式会社
	長野オートメーション株式会社
	ミヤジマ技研株式会社
	株式会社綿谷製作所
行政	上田市
金融機関	上田信用金庫
大学・研究機関	公立大学法人長野大学

令和7年度の取組

- 地域の企業と長野大学の教員・学生が交わり、これからの地域課題や人材育成の可能性をともに考える場として「交流フォーラム」を定期開催（4回開催）
- うえだ人材共創スクエア一般公開シンポジウムを開催【テーマ】「AI・人工知能と共に働く時代、問いから始まる未来」
- 新学部と令和8年カリキュラム内での連携（企業講演、社員参加）について具体的に協議



交流フォーラムの様子

新棟建設プロジェクト

概要

- 基本設計から施工・監理までの一括発注方式（デザインビルド方式）を採用
 - －部材・材料の選定、施工方法、工程管理の最適化によるコスト削減、工期短縮
- シンボリックな新たなキャンパス
 - －長野大学を核とした上田地域の新たなシンボルとなる新棟の建設
- 大学と地域をつなぐ共創空間
 - －地域に開かれた自由度の高い共有空間により、学生と多様な人々との交流による新たな価値創造の場を整備

事業スケジュール

- ✓ 基本設計・実施設計
 - ・令和5年12月～令和7年1月末
- ✓ 新棟建設工事
 - ・令和7年2月～令和8年7月末
- ✓ 既存校舎の改修
 - ・段階的に改修工事を実施し、令和9年6月末に完了予定



新棟のイメージ



建設中の様子



ステッププラザのイメージ



建設中の様子

＜基本情報＞

改組予定年度：令和6年度
改組内容：学科の新設
(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)
設置等組織名：工学部医薬工学科
入学定員：【R6新設】60名
所在地：山口県山陽小野田市

＜概要＞

事業期間：令和5年度から令和6年度
事業内容：新教室棟の整備
研究機器の購入に要する費用

バイオ産業の成長を牽引する 工学部 医薬工学科

バイオ技術 / AI・DX
/ 品質管理・経営管理

山陽小野田市立山口東京理科大学

工学部と薬学部を設置する全国唯一の公立大学
この特色を活かし、工学×薬学×デジタルを融合した「医薬工学科」を2024年4月に設置します。原薬生産量が日本トップレベルの山口県の地で、世界的成長分野であるデジタル・バイオ技術のイノベーションをけん引する人材を養成します。



新教室棟



＜教育研究環境の整備計画等＞

- 最先端の教育研究を行う教員、実務経験のある教員を配置
- DX教育環境とラーニングcommonsを備えた新教室棟を整備
- グループ単位で議論に参加する共創型の教育環境を実現
- 外部資金の獲得を推進し、更なる研究力強化を図る
- 山陽小野田市による官民連携事業(LABVの手法)にて新たな学生寮を建設(令和6年3月完成)
- 入学者選抜における「女子枠」の設置や、女子寮・保育所により安心して学べる環境を整備し、女性活躍に貢献
- 地域のバイオ×デジタルの産業創出・人材育成拠点として「バイオロジクスDXセンター」を設置

学生寮を含む複合施設

(LABV (Local Asset Backed Vehicle) の手法を採用)



＜工学部医薬工学科の教育＞

- ライフサイエンスとデータサイエンスの両方に精通しバイオ医薬品・医療機器、化粧品・食品に関する製造技術・プロセス開発、製品の品質評価・品質保証に貢献できる専門的な人材を育成
- バイオ技術と、AI・DX・データサイエンスの知識と技術、GMP品質管理・経営工学の知を実践的に活用できる人材を育成
- 山口県・山陽小野田市・山口県製薬工業協会に加盟する企業との連携を特色とし、「GMP品質管理」「薬事法規」「バイオ医薬品工学総論」「化粧品・医薬部外品総論」「バイオ・インフォマティクス」を展開
- 他大学や企業との連携の下、アントレプレナーシップ教育や知財教育、技術経営教育の実施
- 「GMPの3原則」(人による間違いを最小限にする、医薬品の汚染等を防ぐ、高品質を保つ仕組みをつくる)に精通し、医薬品と工学の両方の知見を有するP(パイ)型の技術者を養成
- 入学者選抜から出口まで一貫した質保証

赤字：審査において「特筆すべき内容」と評価された点

バイオ・デジタルトランスフォーメーション産業人材(バイオDX産業人材)を育成

令和7年度：デジタル・バイオDXイノベーションをけん引する人材の養成

多様な入試体制の導入、学生募集、広報の工夫による高い志願倍率

	募集	志願者	倍率
学校推薦型	30	105	3.5
外国人留学生	若干名	1	-
国際バカロレア選抜	若干名	1	-
総合型	5	34	6.8
一般(前期)	20	122	6.1
一般(中期)	5	103	20.6
合計	60	366	6.1

令和7年度入試において志願倍率は**6.1倍**である。入学者数65名のうち**女子学生49名(75%)**である。なお、令和8年度学校推薦型選抜(女子枠)は募集人員2名に対して47名の出願があり志願倍率**23.5倍**であった。

質の高い教育実施

山口県GMPカレッジとの協調によるGMP品質管理教育

実務経験のある教員の雇用

学内向け公開セミナーの開催
(令和7年5月22日 参加者 71名)



学内向け公開セミナー

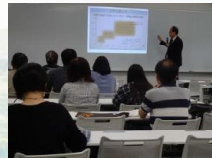
企業や自治体、他機関との連携

山口県製薬工業協会からの講師を招く**地域産業論**の実施

地域向けイベント**大学開放デー**の開催
(令和7年9月28日 参加者 約1,000名)

＜大学開放デー＞

地域の方に大学を身近に感じていただくことを目的に、教育・研究の現場や科学技術に触れられる大学主催のイベント。企業・自治体・大学が協力し、教養講座、研究ポスター展示、講演会、健康フォーラム、科学作品展示、科学実験体験(高校・企業・大学)、タングラムコーナー、ダイバーシティ推進室企画などを実施。



工学部医薬工学科
市民向けの教養講座



地域企業による
科学実験体験

山口県は原薬生産量が全国トップクラスの ライフサイエンス・クラスター



安心して学べる教育環境の整備

工学×薬学×デジタルを融合した学びの場としての新教室棟を整備
(令和7年3月完成)

ラーニングcommonsを備えた新教室棟内に**バイオロジクスDXセンター**を設置



竣工記念セレモニー

新教室棟(館内)

バイオロジクス研究・トレーニングセンター(BCRET)との連携協定

BCRET BIOLOGICS CENTER FOR RESEARCH AND TRAINING

BCRETとの協定に準じ、以下の講習会に用いる教材の作成に協力

講習会：令和7年度厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課委託事業
バイオ医薬品の専門人材育成事業～座学研修～バイオ医薬品の製造工程の開発

開催日：令和7年11月10及び11日 参加者 45名
開催形態：webミーティング

※バイオロジクス(biologics)とは、遺伝子、タンパク質、細胞や組織など生体由来の物質や生物の機能を利用して製造した製品のこと。

<基本情報>

改組予定年度：令和6年度
 改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
 設置等組織名：情報工学部
 入学定員：【R6新設】160名
 所在地：富山県射水市

富山県成長戦略「新産業戦略」

企業における生産性の向上、商品・サービスの高付加価値化に向けたDXを推進
 ⇒担い手となるデジタル人材の育成が課題

データサイエンス人材育成に係る有識者会議

新学部設置を念頭に、①育てるべき人材像、②教育組織の方向性、③入学定員、④教育課程の方向性、⑤学修環境の充実などについて協議
 （構成員：県経営者協会、県機電工業会、東京大学教授、本学学長など）

<提言内容>

- ・ 数理・データサイエンスの専門教育を行う学部学科を新設し、これと関連深い分野の工学部の学科を再編し、情報を軸とする一体的な教育組織とすべき
- ・ 数理・データサイエンスの力を着実に身に付け、これに現場の課題を解決する力を兼ね備えられる教育課程を構築すべき

県内外企業採用意向アンケート

県内外502社を対象とした調査の結果、情報工学部各学科卒業者の採用意向人数の計は各学科の入学定員の約4~5倍
 ⇒養成する人材への社会的、地域的ニーズ高い

県内高校生進学意向アンケート

全日制高校44校中18校を対象とした抽出調査において、情報工学部各学科へ「入学意向あり」と回答した生徒数は各学科の入学定員の3~5倍
 ⇒十分な学生確保の見通しを備えている

情報工学部
 データサイエンス学科
 情報システム工学科
 知能ロボット工学科

「情報」を軸とする工学の専門知識と、データサイエンスの専門知識を兼ね備え、現代社会が抱える課題を認識し、より良い解決策を見出す能力と意思を持った人材を育成

入学者選抜

理系を重視した基礎学力に加え、それらの知識を活用した論理的な思考力・判断力・表現力を総合的に評価し、大学での学修に必要な資質・能力等を的確に評価

教育の特色

1. データサイエンスの専門教育
 情報を軸に、機械・電子などの工学の専門知識、データサイエンス理論の素養を併せ持つ情報工学専門人材を育成
2. 少人数教育
 少人数によるゆきとどいた教育体制を構築
3. デザイン思考による課題発見解決力
 課題解決方法としての「デザイン思考」の授業により、産業界や社会が抱える潜在的課題を認識し、より良い解決策を見出す能力を育成
4. 企業の技術者との連携授業
 教員自身の実務経験を活かした実践的な教育や、企業等で活躍している技術者、研究者を招聘する特別講義の実施
5. 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成
 本学教養教育センターの専任教員が担当する豊富な教養科目のカリキュラム編成により、人間性豊かな人材を育成
6. 学生の自立を促すキャリア教育
 本学キャリアセンターが提供する各種キャリア形成のためのプログラムにより、学生が生涯にわたるキャリア形成について主体的に考え行動できる能力を育成

他機関との連携

- ・ ものづくり産業の最新の研究・技術動向の理解などを目標に、**企業で活躍している研究者や技術者を講師として招聘**
- ・ 学外の著名な学者や注目されている分野で活躍中の研究者など、他大学教員や各種研究機関の研究者、企業人を招聘した特定のテーマに関する授業を展開
- ・ キャリア教育事業の企業と連携し、学生の生涯にわたるキャリア形成能力を育成

多様な入学者の確保
 地域の初等中等教育段階の学校との連携

- ・ 県内外の高校に本学教員が出向き講義を行う「出張講義」「学部・学科紹介講座」や、高校生が大学で講義や実験などを体験する「科学技術体験講座」を実施
- ・ 県内高校が**取組む科学探究講座や課題研究などの実施**への協力

教育研究環境の整備

収容定員増や専任教員の増、新たな教育研究分野に対応した環境整備に加え、**デジタル・グリーン等の成長分野に係る共同研究を推進するための新棟を整備**

外部資金の獲得

- ・ 大学全体の外部資金獲得額を、従来の実績平均に支援額の2.5%を上乗せした水準以上とすることを旨とし、情報工学分野の研究を推進
- ・ 一層の機会創出に向け、学内のシーズ発掘や産業界のニーズ把握、産学官の共同研究等の促進、公募情報の収集及び学内への周知、申請書類作成等にかかる事務的支援などを実施



数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）

目的

☆本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に準拠している。

数理・データサイエンス・AIを活用し、自らの専門分野等において、課題解決や価値創造等に取り組むことができる実践的な能力を身につける。

特色

- ①専門性を活かした学び
- ②課題解決のための実践力
- ③エキスパート人材の育成への橋渡し

エキスパートレベル

応用基礎レベル…情報工学部で実施※

リテラシーレベル…全学で実施※

修了要件

- データサイエンス学科 19単位
- 情報システム工学科 22単位
- 知能ロボット工学科 18単位

※国から認定済
 プログラム修了者には修了証を発行！
 就職活動等で知識・スキルをアピール！

「デザイン思考」による課題発見解決力の養成

課題発見・解決の教育プログラム「デザイン思考」を3学科共通の必修科目に位置付け、数理・データサイエンスの力を地域や産業の現場に応用できる人材を育成。

- R5~6 学外企業と連携し、指導教員を対象とした研修を実施
- R7 「デザイン思考（全学科2年）」開講
 - 他者との協働による課題発見解決のための方法論をPBL授業を通じて学習
- R8 「実践デザイン思考（DS・情報3年）」「プレゼンテーション演習（知能3年）」開講
 - 県機電工業会会員企業等と連携し、企業から提供された現場課題を事例として、より実践的な演習を展開

企業等で活躍する技術者・研究者との連携

- 富山県機電工業会と連携し、企業や研究機関等の第一線で活躍している技術者や研究者等を外部講師として招聘する「特別講義」を全学科でカリキュラムに編成。
- ①富山県内ものづくりに関する産業構造の理解、②富山県のものづくり産業の最新の研究・技術動向の理解、③企業が抱える現場課題の理解、の3項目を学生の到達目標として設定している。
- R7 データサイエンス特別講義（DS2年）、企業特別講義（情報2年）、キャリアアップ特別講義（知能2年）開講
- R8 情報工学特別講義（DS・情報3年）、知能ロボット工学特別講義（知能3年）開講

多様な入学者確保に向けた志願者の裾野拡大の取組

- 県内外の高校からの要請に応じて「出張講義」「大学・学科紹介講座」を実施。出張講義では、情報工学部3学科の教員が高校生向けにアレンジした計49テーマの講義メニューを設定。
- 県内高校と連携し、高校生が本学キャンパスで大学教員による模擬講義や実験・実習を体験できる「科学技術体験講座」を実施。
- 科学探求系のカリキュラムを設定する県内高校に本学教員を派遣し、課題研究への助言・指導等の協力を実施。

情報工学部の設置に伴う新棟の建設（令和8年4月供用開始）

○鉄骨造4階建て 延べ床面積 4,044.55㎡

4F	教授会室、会議室、教員室、研究室
3F	教員室、研究室
2F	データサイエンス演習室、学科事務室・資料室、教員室、研究室
1F	講義室、学生実験室、グリーン×AI教育研究拠点

※「グリーン×AI教育研究拠点」

- 学部学科を横断した学内教員の連携に加え、企業、自治体との協働研究を推進。
- 主に4つのインフラ系項目（①エネルギーミックス、②インフラの長寿命化、③河川流域の水・土砂災害予測、④製薬プロセスのグリーン化）について、AI・データサイエンスによる分析や将来予測を取り入れ、GXによる課題解決（グリーン化）、社会実装に向けた研究を展開。



情報工学系大学院の設置

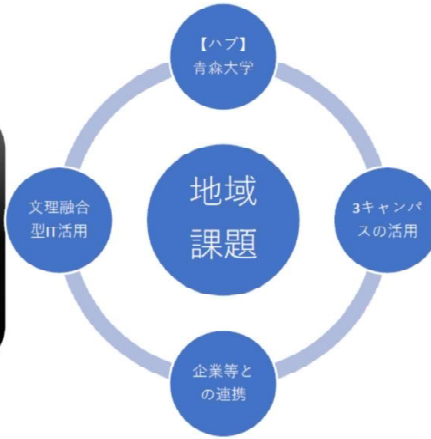
	現在	⇒	令和8年度
博士前期課程	工学研究科（入学定員108名）		工学研究科（入学定員84名）
	機械システム工学専攻（20名）		機械システム工学専攻（24名）
	知能ロボット工学専攻（20名）		電気電子工学専攻（仮称）（15名）
	電子・情報工学専攻（27名）		環境・社会基盤工学専攻（15名）
	環境・社会基盤工学専攻（15名）		生物・医薬品工学専攻（30名）
	生物・医薬品工学専攻（26名）	+38名	新 情報工学研究科（仮称）（入学定員62名）
博士後期課程	工学研究科（入学定員10名）		工学研究科（入学定員6名）
	総合工学専攻（10名）		総合工学専攻（6名）
			新 情報工学研究科（仮称）（入学定員4名）
			新 情報工学専攻（仮称）（4名）

青森大学地域課題解決型情報インタフェース強化事業

<基本情報>

改組予定年度：令和8年度
 改組内容：既存学部の内容を再編する等の増加
 設置等組織名：ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
 入学定員：【R8増員】改組前70名 → 改組後90名
 所在地：青森県青森市、東京都江戸川区、青森県むつ市

【コンセプト・イメージ図】



【青森大学改組の特徴】

新たに特定成長分野に関する内容を強化するための社会インタフェースを構築するコース等を設定し、以下の特徴を活かした教育を展開していく。

- ① 情報工学を主体とする知識の修得、情報の蓄積
- ② 本学の3キャンパスの異なる地域ニーズに対応した地域課題の解決
- ③ 文理融合型の教育と地域連携を組み合わせ地域力を活かすチーム体制

【支援事業の目標】

- ・ソフトウェア情報学部を工学のイノベーションのハブとした人材育成
- ・農業、高齢者支援、GXなどの研究とITなどの特定成長分野の内容を掛け合わせた地域課題の解決
- ・地域の課題を工学的な視点などから解決できる人材を育成し、地域課題を解決するサイクルを回していく

【連携を通じた教育体制の整備】

- ・徹底したプログラミング教育を中心にITスペシャリストを育成
 - ・初心者から経験者まで確実にフォロー
 - ・地域・社会と連携した学びの場での活動
- 上記に加え、
- a) 地域差を含めた地域の深い理解
 - b) ICT活用
 - c) チームでの実践を学習目標
- これらについて、自治体、企業、連携校等と連携して、教育体制を整備していく。

【多様な入学生の確保戦略】

- ・入学選抜に関して社会のニーズ等を踏まえた見直し
- ・地域の初等中等教育段階の学校と連携した出張授業や教育関連イベント等を通じた本学の特定成長分野の人材育成における魅力等の発信
- ・社会人を対象とした、特定成長分野の内容を含んだリカレント教育、リスキリングの推進
- ・在学留学生の声などを参考に、出口の保証、本学の魅力の発信等をふまえた留学生戦略



現在進行形の地域課題を知る・ビジネス課題を知る・情報技術の活用例を知る

特別講義

地元自治体、地元企業を含む多彩なゲスト講師によるオムニバス形式の講義 (全15回)

1. 「授業ガイドダンス」IDと青森市役所における長期インターンシップ報告
2. 「青森県産品産地情報プラットフォーム Liquid」のこれまで・これから 栗本 拓希、西村 和也 (株) Liquid
3. 「交通をとりまくデジタルソリューションの最新動向」土屋 賢一 (交通経済研究所 産産研究センター)
4. 「More Form Less with Smart BCM(Building Carbon Management) by Bits over Watt for (Global) Digital Infrastructure, As is - To Be (Physical first - Cozy first (Digital twin) - Code/Cyber first)」(江崎 浩 (東京大学大学院工学系研究科))
5. 「鉄道通ずる設計する積層の構築とは?」中畑 聖 (北海道大学電子科学研究所)
6. 「Cybersecurity Gamification」(Renata CHANG・岩崎 輝 (CyCraft Japan))
7. 「考えよう日本のエネルギー」(シニアネットワーク東北)
8. 「IVU C Aの時代を生き抜くために」(高坂 尊 (青森公立大学))
9. 「E-Book × 書籍 × ニュース × ニュース × リイバートロフィーが描くデータ駆動型の新しいつながり」(藤原 修 (株式会社ソニーコミュニケーションズ))
10. 「スーパードキュメントとITER」(徳永 貴典 (量子科学技術研究開発機構六ヶ所フュージョンエネルギー研究部))
11. 「コードが動かす未来社会: コネクテッドカーとスマートシティが拓く世界」(入江 重樹、流石 昌史 (トヨタ自動車 豊田 彰))
12. 「プレゼン」(相手を動かすこと) 本田 政弘 (AOIT (NPO法人あまもりIT活用サポートセンター))
13. 「『除害』課題について皆で考えよう」(流石 昌史、入江 重樹 (トヨタ自動車 豊田 彰))
14. 「『除害』課題について皆で考えよう」(流石 昌史、入江 重樹 (トヨタ自動車 豊田 彰))
15. 「スマート農業 (CS)」(横口 大真 (株) 日本農業)



人文系学部 (総合経営学部、社会学部) ・企業との連携型プロジェクト (課題解決型学習) ①

『デジタルアーカイブによる社会的記憶の継承—過去から未来へ』

目的：青森市にある松丘保養園 (国立ハンセン病療養所) の歴史と現状を学び、デジタルアーカイブングを通じてその重要性を伝える。

内容：実際に施設を訪れ、グループで協力し、取材やインタビューを行い、松丘保養園の歴史と記憶を未来に伝えるデジタルアーカイブ作品を制作。制作技術を学びながら、地域社会に貢献できる作品を完成させることを目指す。



360度カメラによる撮影

3Dスキャンカメラ(LIDAR)による撮影

新たな学びと交流の場としての学部内サークルの発足

Campus Networking Club

学内ネットワークの改善、保守を通じた学びと交流の場としての学部内サークル活動

- Play = 失敗しても良い場
- Passion = 様々な技術に触れられる場
- People = 学内ITコミュニティ



DXハイスクールとの連携を見据えた

高大連携活動

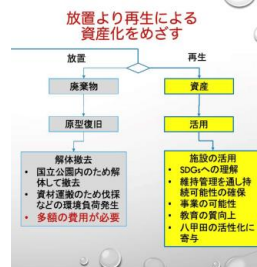
大学生が教えるプログラミング特別授業



3Dゲームエンジンによる最新開発講座

人文系学部 (総合経営学部、社会学部) ・企業との連携型プロジェクト (課題解決型学習) ②

新湯再生プロジェクト



New 縄文の暮らし

最小限の資源を使いながら、豊かな生活をするとともに、現代社会とも共生する

- ・リモートワーク、国際ワークショップなどの拠点として活用する。
- ・IoT技術導入によるモニタリング、自然との共生

災害時におけるモデルハウスとしても

共催 公益財団法人KDDI財団

新湯再生プロジェクトの拡散	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の再整備を行った後の活用を推進 ・「フィールドツーリズムコース」演習の活動拠点として活用 ・ゼミ合宿など学生の体験学習の場として活用 ・SDGsの観点で持続可能な観光産業での活用調査検討 ・再生後の施設運用による地域経済の活性化
情報の地産地消	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化 ・ゼミ生と地元産品 (青森、岩手、群馬) の連携 ・青森市内と繋ぐ道をつなぎ、岩手、群馬も視野に入れスマートシティ構想につなげる
デジタルデバイドの解消	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費の可視化、リモートモニタリング ・Smart city基盤構築の第一歩 (青森大学からむつ市、青森、世界へ)
新たな教育機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・福地地域への通信インフラ/高速インターネット環境の提供 ・災害対策としてのDual mode ・DC教育との連携、遠隔教育 ・教育現場の接続、イベント配信、SDGsのアイデアコンペ



育成する人材像

情報・デジタルの専門的知識・技術だけでなく、それを人と社会のために活用する際に必要な、論理的思考力、課題発見・解決力、共感性、コミュニケーション能力といった他者と協働できる力等の汎用的技能及び現代社会に必要な教養を身に付け、情報システムやメディアデザインに関する技術から新しい価値を創造し、デジタル技術の導入や運用を推進していく人材

専門教育 (ITスキル標準Lv.3~4相当)

情報システム分野

情報・デジタル技術を活かすために不可欠な情報システムやアプリケーションソフトなど、基盤となる新たな仕組みを開発し、社会の課題解決を担う人材となるため、プログラミングをはじめ、データベース、ネットワーク、情報セキュリティなど、システムやアプリの開発に必要な知識・技術を幅広く学ぶ

メディアデザイン分野

様々なメディア技術の中から最適な方法を選択し、それを社会の課題解決に活用できる人材となるため、デジタルメディアの基礎から学びをスタートさせ、映像制作 (VR, AR)、SNS活用、Webデザイン、CGアニメーションなど、実践的な知識・技術を幅広く学ぶ

専門基礎教育 (ITスキル標準Lv.2相当)

「基本情報技術者試験」を全員受験

一般教育 (ITスキル標準Lv.1相当)

専門科目

基礎科目、専門核科目、専門関連科目、PBL型科目、演習、実習

身につけたスキルを社会の中で活かす方法も併せて学ぶ

他学部連携科目
経営学部
人文学部

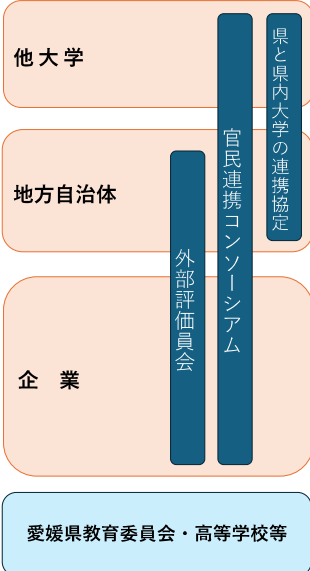
教員・学生交流
施設利用
単位互換

政策・ニーズ
産官学連携

実務家教員の派遣
産業界のニーズ
産官学連携
PBL型科目

インターンシップ

高大連携
高大接続



基本情報

改組予定年度: 令和7年度
改組内容: 学部の新設
設置等組織名: 情報学部情報学科
入学定員: 【R7新設】120名
所在地: 愛媛県松山市

設置準備

愛媛県が掲げる「あたらしい愛媛の未来を切り拓くDX実行プラン」の取組みと連携。高校のニーズ調査に基づいた定員設定。愛媛県立高校再編による情報系コース等の増設や各校の情報教育の強化にも対応。愛媛県教育委員会と連携して高大連携・高大接続を推進

学びの特徴

地域のニーズを取り込んで、地域・企業が持つ具体的な課題を題材に、地域や企業と協働したPBL型教育を行うことで、課題の解決に取り組みながら、学生たちに学んだ知識や技術を社会の中で活かす方法を実践的な教育を実現。様々な分野の実務家教員の配置により、社会に直結した学びを推進

キャリア教育、キャリア支援

「愛媛県官民連携IT人材育成コンソーシアム」による自治体や企業と協力関係に基づき、インターンシップや就職支援等を実施

教育の質保証

基本情報技術者試験の合格を原則必須とし、ITスキル標準Lv.3~4の資格取得を目指すことで、客観的に質を保証。また愛媛県や企業と協力して、教育の質に関するPDCAを評価するための外部評価委員会を設置し、教育体制・教育研究環境の継続的な向上を実現

他大学等との連携

愛媛県と県内大学による連携協定に基づき、デジタル人材の育成・確保、教員・学生の人的交流、施設・設備の相互利用、調査・研究の4つの事項で連携する

外部資金

科研費等、受託研究、施設設備寄付金、共同研究事業の獲得を奨励

多様な入学者の受け入れ

女性に配慮した施設整備や女性教員の積極的な採用を計画。ジェンダーバイアスをなくしていくための取組を推進

地域のミライを創造するデジタル人材育成

特に力を入れて実施した取組や特徴があると考える取組など

- 新学部への入学意向・採用意向を確認するための調査実施
- 情報学部の広報に関するホームページ・パンフレット作成
- ミライ体験ツアーや訪問型オープンキャンパスの実施
- 各種オーダーメイドオープンキャンパスの実施
- 情報学部開設記念講演会・シンポジウムの開催
- 情報学部PRアンバサダー (学生) による魅力広報展開
- DXハイスクールや探究活動などの高大連携 [小中を含む]
- 10号館 (情報学部棟) の落成予定 (3月5日)

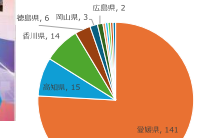


松山大学情報学部



<https://informatics.matsuyama-u.ac.jp/>

松山大学情報学部入学者の都道府県別出身地





<基本情報>

改組予定年度:令和8年度
改組内容:既存学科の収容定員の増加

設置等組織名:工学部情報ネットワーク工学科
入学定員:【R8増員】改組前90名 → 改組後110名

所在地:福岡県久留米市

定員増 認可

AI・データ分析×well-being工学による地域DX人材の育成

人生100年時代の地域社会課題の発見・解決に取組み、地域の人々が多様な幸せ(well-being)を享受する社会を実現

情報ネットワーク工学科の取組み

データ分析の基礎的素養を学修する科目群
DX推進に必要なビッグデータ分析力とAI実装力・
応用技能を修得

産学連携 PBL
地域課題解決型教育

コミュニケーションのスキルを学修する科目群
課題発見力、コミュニケーション力、リーダーシップ力、
国際的視野

課題の発見から解決、表現、実装までの実践技術を修得するための体系的教育カリキュラム

MDASH 修了証の発行

社会ニーズの高い実践的カリキュラム

オープンバッジ・国際的通用性の向上

高大接続強化

- 女子学生が多い商業系や実業系高校との高大接続授業および科目等履修生制度
- 入試における優遇制度
- 課題発見・解決型高大接続入試の新設
- PBL成果報告会の参加体験を踏まえた入学者選抜
- 高校から大学院までの9年一貫専門人材育成プログラムを検討

多様な人々が集う価値共創の場 -メタバース・ラボ-

- 社会人と学生がともに課題解決に取組むPBLや協働研究のための実空間の設備
- 時・場所を選ばないバーチャル空間(メタバース・ラボ)の利用環境を整備・拡充し、教育・研究へ有効活用
- メタバース・ラボを用いた海外バーチャル留学

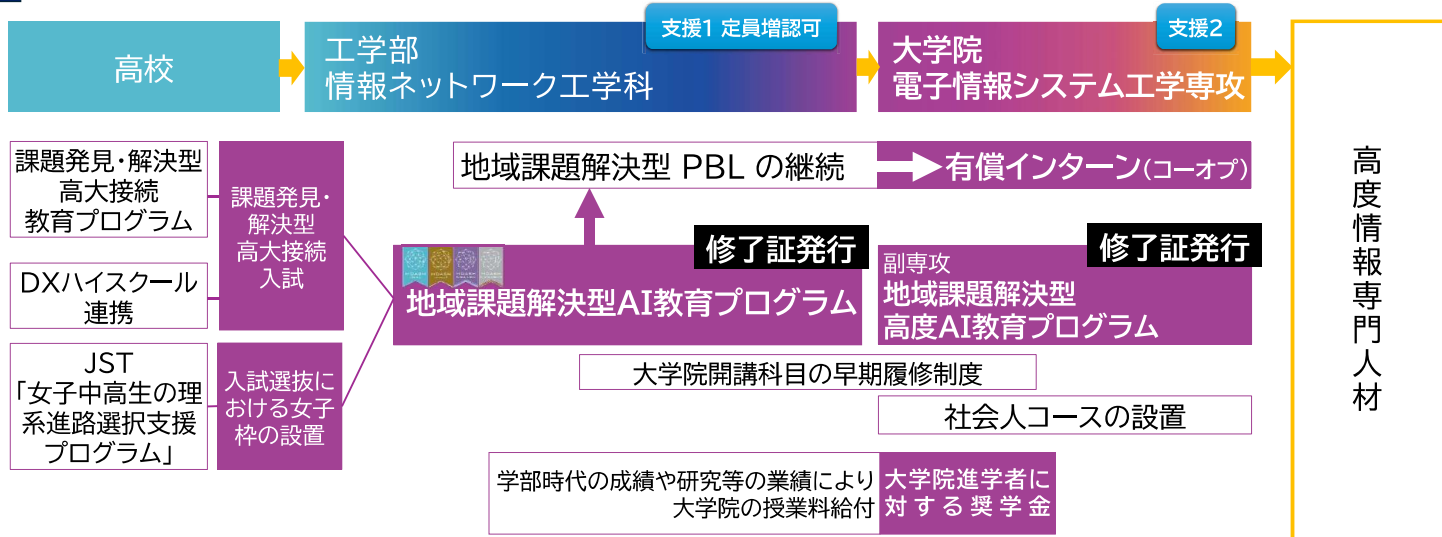
産業界・学外との連携

- 実務家教員によるオムニバス講義「先端情報技術」
- 社会的ニーズや人材育成に関する意見を聴取する協力体制
- 経済産業省策定「DX推進スキル標準」を満たす人材育成
- 地域高等教育機関に向けたAI・DS教育支援および連携
- 異分野大学と連携した課題解決型PBLによる地域貢献

PBLを核とした地域課題解決型教育の自走・深化

- 多様な分野における地域課題をAI技術で解決するPBL
- 地域課題解決型AI教育プログラムの実績を活かした共同研究・受託研究への発展
- 寄付金オンライン収納サービスの導入や地域連携活動の強化による地元企業・卒業生からの寄付金、科研費申請増加等による外部資金獲得強化

支援1・2をエンジンとした9年一貫教育



AI教育を軸とした初等・中等教育との連携

1. AIや工学をテーマとした探求型高大接続教育プログラムを展開。高校における総合的な学習(探究)の時間の代替としても位置付け、総合型選抜において「課題発見・解決型高大接続入試区分」を新設。プログラム修了者が出願
2. 本学のAI教育プログラムの知見を高校の情報Ⅱの内容として提供。DXハイスクール選定校と密接な協力関係の構築
3. JSTリケジョプログラムへの参画による女子中高生の理系進路選択の支援

ウェルビーイング工学によるAI/DX推進人材育成のPBLプログラム

1. 数理・DS・AIに関する素養を備え、AI・データ分析×well-being工学を専門とする、経産省策定のDX推進スキル標準を満たした、社会のあらゆる分野で活躍できる情報専門人材を育成し、一人ひとりの多様な幸せ(well-being)と課題への挑戦を実現する教育・人材育成を具現化
2. 地域の特性や強みとデジタル技術の掛け合わせによる異分野融合の視点を育む、データ駆動型社会に必要な実践技術を学ぶための授業科目として、社会人との連携によるPBL科目「AI実践プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」や「プログラミング」「データサイエンス」「ビジネスデータ分析」などのAI・DA科目群を整備
3. メタバースを用いた異分野・異年齢連携可能なバーチャル環境を整備





<基本情報>

改組予定年度：令和8年度
改組内容：既存学部の収容定員の増加
設置等組織名：システム理工学部
入学定員：【R8増員】改組前485名 → 改組後705名
所在地：埼玉県さいたま市

社会で活用できる総合知を持った
システム工学を横串とした
π型人材を育成



システム理工学部は、学部開設時から進めてきた総合的、学際的に問題解決を図るセンス（総合知）と具体的技法としてのシステム思考の工学（システム工学）を用いて、社会全体の再設計と、これらを担う人材育成を強化する。学部を課程制へ変革し（構想中）、システム工学により主専攻と副専攻を掛け合わせた総合知のための分野横断型教育を強化。

3つの特定成長分野の人材育成（③、⑤、⑦、⑫）

情報課程（IoT/ソフトウェア/メディア/データサイエンス）、生命・健康科学課程（生命科学/医学/スポーツ工学）、建築・環境課程（建築/環境・都市）に改組し定員増。分野横断型のプログラム設計、アントレプレナーシップ教育の充実。学際的に課程を横断し、モジュールを組み合わせるカリキュラムを編成。モジュールにデジタルバッジを導入。産学官金連携PBL、国際PBLの連携強化、時と場所を選ばずに学修できる国際連携環境を構築。国際プログラム（交換留学）のモジュール化の実施。

多様な分野の産業界、埼玉県・さいたま市・上尾市、栃木県那須町等の自治体、金融機関と連携したPBLと研究推進。経験豊富な実務型教員を配置、関係する課題提供企業からのフィードバックをカリキュラムに反映するなど社会に即した実学志向の授業を展開。各課程の要請する人材像や実践的内容を盛り込んだ産学連携方式等を、PBLの課題提供企業等に意見調査、カリキュラムへ展開。アントレプレナーシップで求められるコンピテンシーの意見調査と企業・自治体へのアンケートからカリキュラム設計。SEATUC(South East Asian Technical University Consortium)に所属する海外協定校とのピアレビューによる国際的な質保証。

多様な入学者と女子学生確保に向けた取組（②）

- 課程・コースごとに学生確保のための高校生アンケート実施
学部の特徴であるシステム工学教育と国際プログラムの魅力発信
女子高生と保護者を対象としたシンポジウムやサマーインターンシップの実施。理工系女子特別入学者選抜や理工系女子技術者支援奨学金（給付）制度の実施
地域の高大連携事業協定校に対する進学イベントの実施や入試制度を新設
併設校へ講義と演習を組合せた高大接続特別授業の実施
課題解決基礎力、対人基礎力、對自己基礎力を評価軸とした総合型選抜の策定

教育研究環境整備（④）

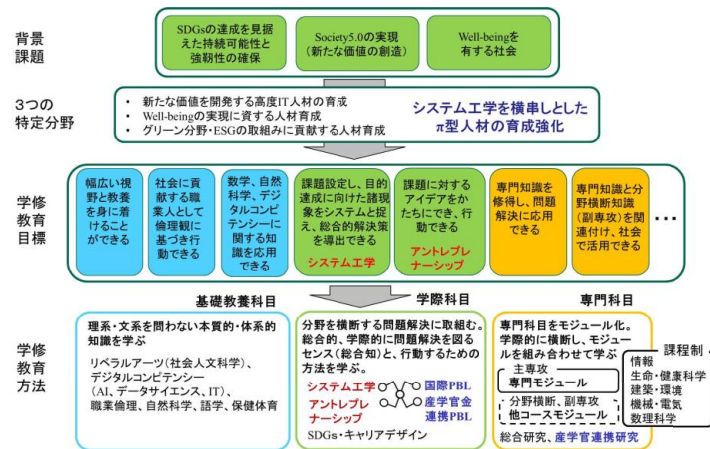
学外からも利用できる研究・実験施設及び産学官金連携の拠点となる共同研究拠点を整備。全学組織「大宮キャンパスマスタープラン実行委員会」と学部教員による「システム理工学部改組開設委員会」を設置し、全学的な教育改革方針（課程制移行）と学部の独自性（システム工学を基盤とした分野横断型教育）を満足する新施設を建設。オープンラボなど多彩な研究スペースや、医工学とスポーツ工学に関する研究実験施設を整備。

地域の健康増進に資する施設、産学官金連携事業の拠点となるイノベーションセンターを整備し、学内外の共同研究等の拠点とする。本事業は、2021年4月に採択された脱炭素先行地域（環境省）事業の一環としてZEB導入を視野に入れた環境配慮型Well-being促進施設。実施設計中、2024年3月着工、2025年12月竣工予定。



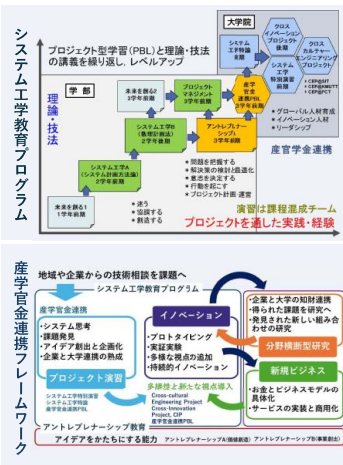
寄附金、研究費等の外部資金獲得（⑪）

課程制移行に伴い研究・実務能力の高い基幹教員を23名増員。競争的資金及び地元企業等からの受託・共同研究費を積極的に獲得予定。卒業生・学生保護者・近隣企業等への2027年度の100周年記念寄付を積極的展開。2022年度から寄附金大幅増額。助成期間終了時には、申請時点の平均に2.5%を上乗せした水準まで引上げる計画。

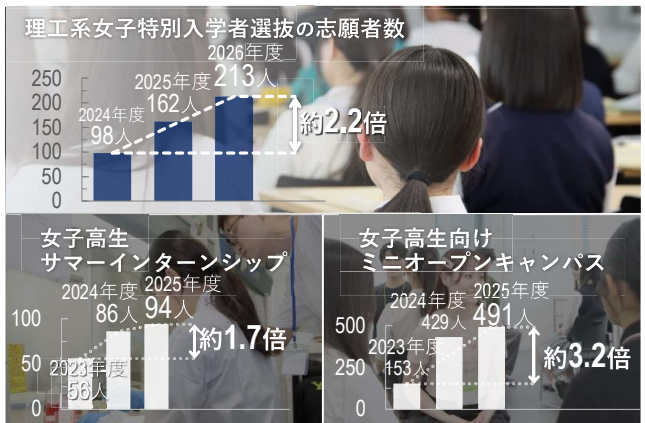


「学際科目」
アントレプレナーシップ

Table showing the relationship between interdisciplinary subjects and EntreComp



女子志願者
女子向けイベント参加者が増加



キャンパス整備計画
「O-CAMP 2027」
2025年12月に完成する新校舎。スポーツ工学や医工学、化学、情報系の研究機関、体育館、eスポーツ施設、社会貢献施設「地域健康増進センター」などの整備を進めています。



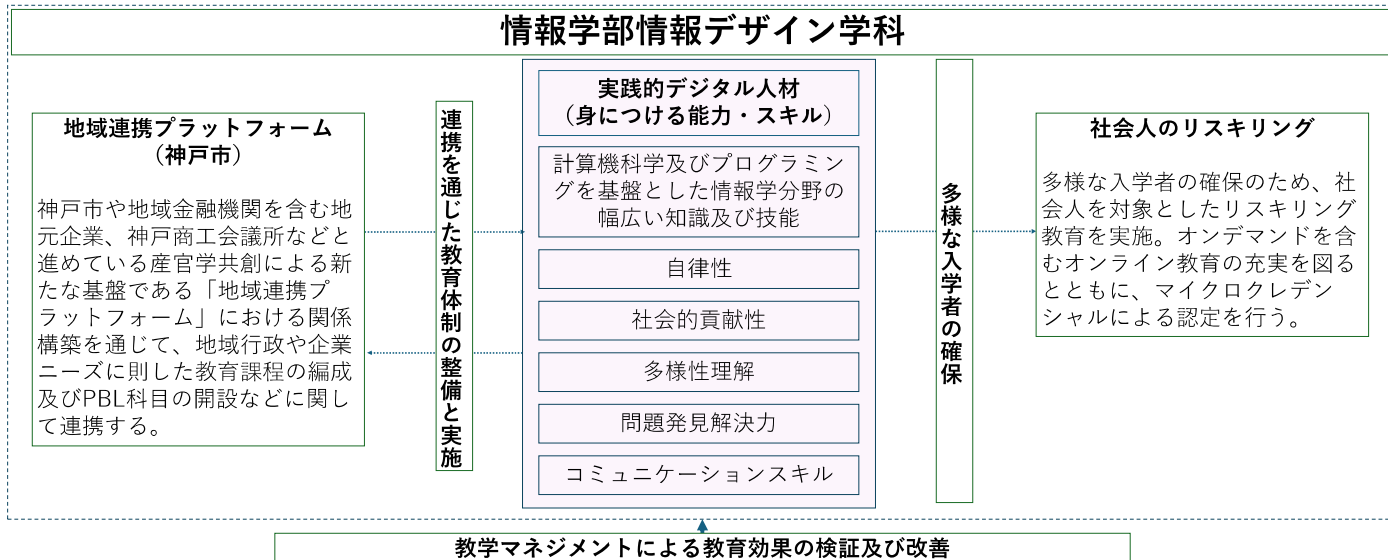
建設状況 (2025.12.01現在)

基本情報

改組予定年度： 令和8年度
 改組内容： 学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
 設置等組織名： 情報学部情報デザイン学科
 入学定員： 【R8年度 新設】80名
 所在地： 兵庫県神戸市

新設学部の特徴

計算機科学及びプログラミングを基盤とした情報学分野の幅広い知識及び技能を体系的に学び、問題発見解決力とコミュニケーションスキルを身に付けた**実践的デジタル人材を育成**を目的とし、とりわけ中小企業において活躍するデジタル人材育成に焦点をあてる。地元自治体である神戸市や地域金融機関を含む地元企業、神戸商工会議所などと進めている産官学共創による新たな基盤である「**地域連携プラットフォーム**」における**関係構築**を通じ、神戸市や参画企業の協力のもと地域行政や企業ニーズに則した教育課程の編成及びPBL科目の開設などに関して連携する。また**社会人を対象としたリスクリング教育**に資するため、**オンデマンド教材を開発し、マイクロクレデンシャル**により認定する。



カリキュラムの特徴

- 数学に自信が無くても必要な知識が身につく授業や、情報学分野における外国籍の人々や女性を含めた**多様な人の多様な働き方について学べる授業**など、ユニークなカリキュラム設計。
- **経験学習を1年次から取り入れ**、多彩なテーマ（例：情報×観光など）でのプロジェクト活動または先端技術を用いたアプリケーションソフトウェアの開発、それらの成果の提案を通じて、企業や自治体とかかわる。
- **海外の大学・企業と提携**して、異文化に触れながら技術を実践し、様々なことにチャレンジする機会を設ける。
- 生成AIを使いこなすために、**正しい日本語、論理構造、ロジカルシンキング**を身につける。
- 魅力のあるサービスや表現方法など**デザインの視点**を身につける。
- **3つの学習モデル**を設定し、専門性を活かした幅広い分野での活躍を強力にサポート。

3つの学習モデル & 将来の活躍イメージ



学べる分野 (例)

「組み合わせ」で広がる情報学部の学び

情報学部の学びは、本学の多様な学問分野と組み合わせることで大きく広がります。

グローバル × 情報

観光イベントでの、謎解きLINEアプリの企画開発や、AIやメタバースでのバーチャルツアーなど

心理 × 情報

心理カウンセラーを必要とする方向けのAIチャットボットなど

教育 × 情報

介護・福祉施設でのDX促進、児童のための学習アプリ開発など

経営 × 情報

ARによる商品配置シミュレーション、ECサイトのUXデザインなど

地域の行政や企業と連携

- 2・3年次を中心に行われる『**実践演習**』では、社会人基礎のマナーなどをはじめ、業界の課題やこれからの展望など、行政や企業との連携から知識を修得。また、各専門科目で修得する先端技術を用いてアプリ開発やAIによる未来予測などを実践し、社会問題の解決にチャレンジ。
- 次世代のDXを実現するための知識とスキルを**段階的に身につける**ことができる。

多様な学び方を実現

- 学部の特徴としても記載したように**社会人を対象としたリスクリング教育**を念頭に置き、通常授業についてもハイブリッド型で授業を実施したり、オンデマンド受講できるようにするだけでなく、**フルオンデマンドでの講義を構築**する。これは秋入学や編入の留学生を含む学生の学習環境を整えることにも資する。
- **マイクロクレデンシャル**により認定する科目や科目群を設定する。



<基本情報>

改組予定年度：令和6年度
 改組内容：既存学科の収容定員の増加
 設置等組織名：情報マネジメント学部情報マネジメント学科
 入学定員：【R6増員】改組前600名 → 改組後1,150名
 所在地：東京都新宿区

<新設や改組の特徴・コンセプト>

第一線で活躍するIT企業と連携した少人数制ゼミや海外大学との連携授業をオンラインで実現！
 「国際性」「地域性」「デジタル活用力」を兼ね備えた、国内外で活躍する先鋭的なDX人材に。

<改組後の教育内容>

DX人材に必要な知識に加え、「国際性」と「デジタル活用力」を学べる科目を新たに追加する。
 * 国際的な視野を持ち、社会とデジタル活用（データやAIの活用方法等）の関係性を理解し、AI活用のための素養を身につける。
 ↳ (例) 地政学、宗教学、国際政治、経済学、AIと社会、AIと教育、グローバルコミュニケーション等
 * デジタル社会を様々な観点で捉え、それらを解決できる実践的能力を養う。
 ↳ (例) オンライン少人数制ゼミ（海外大学、地域、企業との連携授業）、企業IT戦略、DXと組織変革、デジタルアートとメディア等

<学生確保の見通しを備えた計画>

* 平成30年度の開設年度以降、入学定員を大きく上回る志願者数で推移している状況であるが、更に国内外で活躍できるDX人材を育成するため、「国際性」と「デジタル活用力」を身につけるための科目群を新たに新設することで、よりオンラインで実践的な学びを享受したい学生層にアプローチする計画である。

<学修目標・教育カリキュラムの編成・入学者選抜体制の実施計画>

* 学習目標：国際的視野とデジタル活用の視点から、社会を取り巻く課題を的確に捉え、具体的に解決できる実践的能力を身につける。
 * カリキュラム編成：情報の科学・技術分野、社会学及び隣接分野の情報技術の適用対象分野、経営・経済学分野、数理・データサイエンス・AI分野、産学官でのPBL授業及び海外大学との連携授業や研修プログラム等
 * 入学者選抜方法：批判的思考力や文章力等を課題作文、英語力等は提出書類等で選抜する。

<人材育成目標と実現に向けた整備計画>

* 人材育成目標：国際的視野とデジタル活用の視点から、社会を取り巻く課題を的確に捉え、具体的に解決できる実践的能力を備えた先鋭的な人材を育成する。
 * 整備計画：多くの学生がオンラインで国内外の地域とスムーズにやりとりできるシステム基盤の整備・増強のほか、海外の学生とやり取りを行うための多言語対応や国内外の学生から問合せを24時間受け付けるためのChatGPT等のAIを活用した学生支援体制の構築等を実施する。さらに、学生自身が情報技術を扱うための環境構築や学習継続率を高める仕組み、社会人受け入れをスムーズに実施するための環境の整備を行う。

<実務経験のある教員等による授業科目を配置計画>

* 令和6年度時点で、情報通信や研究機関、専門サービス分野等の実務経験者で構成されており、実務経験を生かした授業科目を中心に構成している。

<寄附金、研究費等の外部資金の獲得計画>

現行の教育環境、教育手法、業務環境は、個々の学習者のニーズへの対応が不十分、及び教職員の業務効率向上が必要、という課題がある。これらの問題を解決するために、「生成型AIの活用による高等教育におけるDXの推進」の研究プロジェクトを進める予定。さらに、学生の学習継続率を強化するために、オンライン大学の学習環境にメタバースを導入するなど、オンライン学習環境の効果・効率・魅力を向上させるための研究開発も進めていく。

<自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施・多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画>

* 他機関連携：第一線で活躍する情報通信分野のIT企業や海外大学、国内の地方自治体と連携した授業を実施する。
 * 教育体制：国内外の学生がオンラインで双方向にやり取りできる仕組みを構築するために、HPやLMS、ポータルサイト等の改修やそれらを下支えするシステム基盤の増強、外国語に対応できる教職員等の体制を構築する。
 * 入学者の確保：本学科は既に社会人や海外の学生等の多様な学生がいるため、今後もHPやWEB広告、進学媒体、TVCM等の広報を幅広く活用していく。

デジタル時代の学びを変革する「Step 2」

オンライン少人数制ゼミの導入、産学連携の拡大、システム基盤の強化など、従来の教育スタイルを大きく変革する取り組みを実施中

* オンライン少人数制ゼミの実施と準備

3年次・4年次向け「実践ゼミ」準備

- ・産学連携授業（LMS構築・LTI連携）
- ・学学連携授業
 - ✓ライデン大学（オランダ）とオンライン学生交流会を実施
 - ✓デルフト工科大学、他と連携に向け調整中
- ・産官学連携授業
 - ✓岩手県・滝沢市とのPBL授業実現に向け、次世代農業人材育成をテーマに市役所職員と農業法人のワークショップ研修を実施

* システム基盤整備

- ・収容定員増加に伴うシステムの導入
 - ✓システム増強構築、システム維持・整備、ネットワーク増強
- ・多言語対応
 - ✓社会人受入強化、学習継続率向上、外国語対応に向けたアプリを開発中

* 産学連携

- ・「大規模言語モデルtsuzumi 2」の教育現場へ導入
 - ✓NTT東日本及びNTT研究所とLMSの教材作成及び授業支援の実施に向けて実施予定（12月中旬以降）
- ・株式会社NTTe-sportsと教育連携の締結
 - ✓eスポーツを通じた教育機会の拡充と人材育成を目的とした教育連携の締結。今後教育コンテンツの共同開発の実施予定

* R8年度に開設する新コース（グローバルITリーダーコース）の準備

令和5年度選定 支援1

基本情報

学校コード：F127310108045

改組予定年度：令和6年度

改組内容：学部の新設

(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)

設置等組織名：建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

入学定員：【R6新設】150名

所在地：大阪府寝屋川市

社会ニーズに応える組織形成

建築デザイン学部は以下のコンセプトから社会ニーズに応えるべく教育を行っている。

- ・ **建築専攻**：資格獲得を重視した実学建築教育。
- ・ **空間デザイン専攻**：建築教育と情報教育との融合によるデジタル人材育成教育。

両専攻は共通のカリキュラムで学び、必修科目、選択科目が違ふことで各専攻の個性を持ちながら、建築DXに関するリテラシーは共通にもつ人材を教育する。

地域連携・産学連携

- ・ 寝屋川市と建築分野、都市計画分野において、地域情報と大学の資産、人材を活用して、多様なまちづくりに関する連携プロジェクトを行うための協議を実施。
- ・ MUJI HOUSE と UR と連携し、「団地まるごとリノベーションプロジェクト」において、デザイン及びDIYを実施。(3)



団地まるごとリノベーションプロジェクト

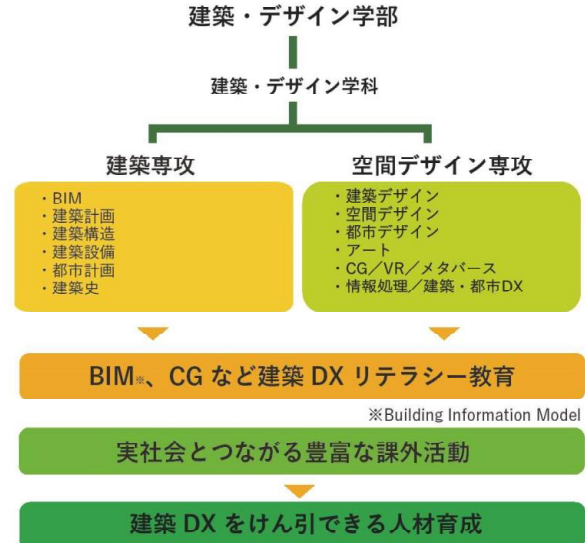
東京ゲームショー 2025
ブースデザインプロジェクト

豊富な課外活動

今後の地域連携、産学連携プログラムに貢献できる人材、卒業後に即戦力として建築・デザイン業界に人材を育成するため、1年生から課外活動として実践的なプログラムを提供している。

- ・ 東京ゲームショー 2024・2025 ブースデザインプロジェクト (実施済み) (2)
- ・ 大学国際交流センターデザインプロジェクト (実施済み)
- ・ 女子ロッカー室デザインプロジェクト (計画中)

大阪電気通信大学



建築DXをけん引できる人材育成

- ・ BIMの基礎教育に加えて、建築の各工程（計画、設計、施工、保守）においてBIMを活用したシミュレーションを行うことができる高度な専門人材の育成。
※2025年度からはその基幹授業である「コンピュータ製図実習」、2026年度から「Building Information Modeling」などの授業科目が開始。
- ・ BIM以外の建築業務のDXをけん引できる人材の育成。
(3DCADやCGアニメーション、画像処理、などデジタルによる様々な表現手法を学ぶ。
※基幹授業 2024年度「デザイン基礎実習」開始済み、2026年度「サイバー空間創成」「コンピュータシミュレーションデザイン」開始



多目的製図室

製図室をコンピューターグラフィックス、仮想現実などのデジタル空間の設計にも活かせる多目的製図室としての使用するための整備した。

多様な入学生確保

入試体制

- ・ 「日本留学試験」を活用した入試制度を導入。
- ・ 文系入試（外国語、国語）を導入。
- ・ 今年度より、女子特別推薦入試の実施。

入学後の支援

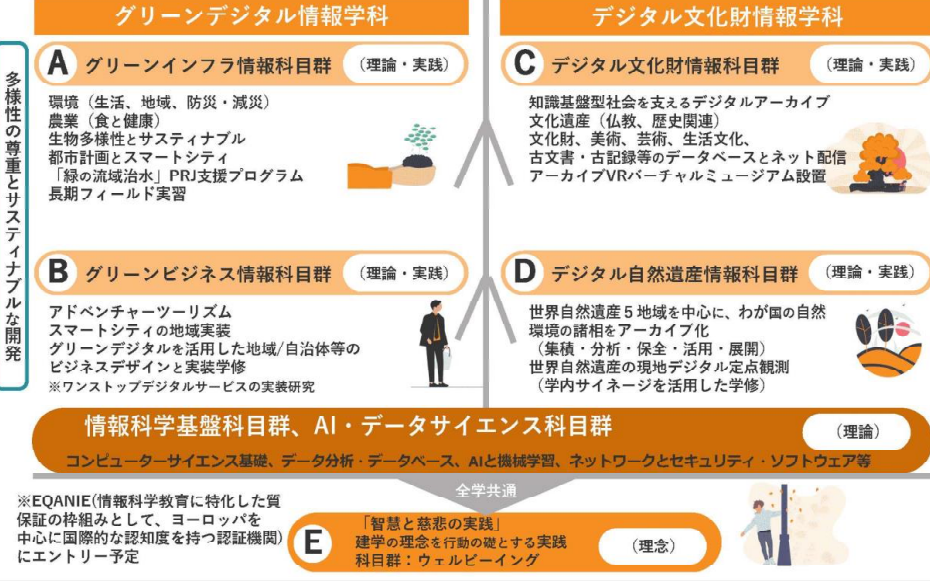
- ・ 数学や物理学の学習について支援体制スタディラボを設置している。
- ・ 新入生定着プロジェクトとして、学外研修を実施。
歴史的及び現代的な建造物の見学を通じて、暮らしと文化について理解を深める。

《基本情報/設置予定年度：令和8年度/改組内容：学部の新設/設置組織名：情報科学部/入学定員120名/所在地：東京都豊島区》

情報科学部のコンセプト

建学の理念「智慧と慈悲の実践」を行動の礎とする
 特定成長分野の可能性を拓く文理融合型のデジタル人材の育成

特定成長分野を担う地域戦略人材育成への取組み



本学の特色ある活動・事業
 →我が国の特定成長分野の発展に寄与する人材の育成
 ☆地域連携/文理融合教育
 ☆企業連携による教育・研究活動
 ☆学生確保の取組
 ☆地域実践の強みを活かす教育

- 社会的ニーズ
デジタル技術を賢明に活用できる知識や技術を持ち、地域の課題解決や新たな産業の発展につなげられる人材が必要。地域経営の視点を育む文理融合型の理系学部は多くないことから、学生確保の見通しは期待できる。
- 実務家教員による授業
企業や研究機関等での実務経験をもつ教員を可能な限り多く採用し、産・官・学・民の連携によるPBL型教育を実施。非常勤教員の採用も同様の趣旨で行い、実務家教員の活躍による実践的かつ質の高い教育を担保。
- 多様な入学者の確保
-ダイバーシティとインクルージョン
多様な社会を包摂する観点から、年代や地域を問わないアプローチを実施。本学の高大接続プロジェクト(S-U.P.P)に加盟する56高校(2024.2現在)に加え、デジタルネットワークを用いたリカレント教育など、様々な環境にある学生に対して平等に学び参加できる環境を整備。
- すがも街中インキュベーションセンター構想
特定成長分野に貢献できる人材育成を目指し、学生に対して実践的アントレプレナーシップ教育を行う。大学に隣接する商店街に様々なインキュベーション施設を設け、情報の集約と分散・相互運用性の確保・コミュニティの結節点の構築などの「ゲートウェイ」として活用することにより教育効果増大を図る。

	連携を通じた教育体制の整備と実施 (2024.2現在)	連携及び協力企業・自治体・大学等
1	企業等との連携(PBL等)の整備・実施	ソフトバンク(株)、TOPPANホールディングス(株)、南日本放送(株)、京都市産業技術研究所、東武トップツアーズ(株)、全国商工会連合会、日本政策金融公庫 等
2	自治体との連携(PBL等)の整備・実施	宮城県南三陸町、新潟県佐渡市、静岡県藤枝市、兵庫県淡路市、鹿児島県奄美市、長崎県平戸市、熊本県あさぎり町、東京都豊島区
3	関連分野に強みを持つ地域及び他大学等と連携した科目の整備・実施	県立熊本大学、東日本国際大学、東京国立博物館、IUCN日本リゾンオフィス(大正大学地域構想研究所内/代表・古田尚也 教授)
4	関連分野に強みを持つ海外大学との連携(連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等)	東国大学校、上海大学 等

本事業で本年度特に力を入れて実施した取組や特徴ある取組

地域や社会・海外と連携したプロジェクト型学修の実施に向けた取組

プロジェクト型学修の目的

- ・大学での学びの目標と将来のキャリアの繋がりを理解する
- ・問題発見・課題解決の体系的な能力を獲得する
- ・地域や社会の課題を科学や情報技術を用いて解決し、価値を創造することを学ぶ



1年生 研究実践プロジェクト

将来の卒業研究や職業での実務を体験し、大学での学びの目標とキャリアを理解する

2年生 課題解決プロジェクト

地域の課題を解決するため、問題発見から設計、実装までのライフサイクルを経験する

3年生 価値創造プロジェクト

地域や社会の課題の解決や共有価値創造のためのビジネスモデルとプロトタイプを提案し評価する

教育・研究環境整備

・新設VRシアター建設および施設改修計画

全長9.76m、高さ5.48mの大型LEDカーブビジョンに8K超高精細VR映像を描画する専用VRシアターをTOPPAN(株)協力のもとに新設。VRシアターでは、デジタル技術を活用して文化財の魅力やストーリーを伝える技術や、デジタル文化財の活用事例について学ぶ。また、PBL科目を実施する教室の施設設備計画、現在の1号館・15号館を改修するかたちで学部研究フロアの整備を行っている。



取組に特化した広報活動

・情報科学部特別イベント『大正デジタル未来ラボ』の開催

ソフトバンク株式会社や静岡県藤枝市等の企業や自治体を招き、情報科学部の概要説明に加え、グリーンデジタル情報学科・デジタル文化財情報学科によるワークショップ、協力企業・自治体による体験型コンテンツ(ドローンプログラミング、スマートシティ紹介、Pepper・生成AI連携など)、保護者向けトークイベント、インフルエンサーによるTikTokライブ配信など、多彩なプログラムを展開した。



【基本情報】

改組年度：令和6年度 改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
 設置等組織名：情報変革科学部（情報工学科・認知情報科学科・高度応用情報科学科）
 入学定員：360名 所在地：千葉県習志野市

【カリキュラムの工夫】

- ・プログラム開発の流れが実践的に身に付くように、1年次段階では『アイデアソン』、2年次・3年次では『ハッカソン』を配置
- ・多数の実務経験者を配置（学部専任教員の約43%）し、最先端の動向を学部教育に反映

【教育環境整備】

- ・通信容量の引き上げ
- ・遠隔地との双方向授業のための教室設備の更新
- ・高性能サーバ、ソフトウェアの導入

【学外との連携】

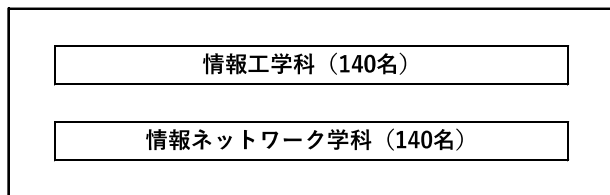
- ・千葉工業大学産官学連携協議会との定期的な意見交換
- ・URAを活用し、研究開発事業への応募と企業との研究シーズのマッチングを促進

【特徴的な教育プログラム】

- ・国立開発研究法人情報通信研究機構と連携し、サイバーセキュリティに関する科目教材を作成
- ・入学初年度の基礎的なセキュリティ教育で、Ciscoネットワークアカデミーのe-Learningを導入
- ・最新のプログラミング言語「IQL言語」について、本学変革センターと米国MITが共同で開発している教育プログラムをモデルに、本学版の独自プログラムを構築

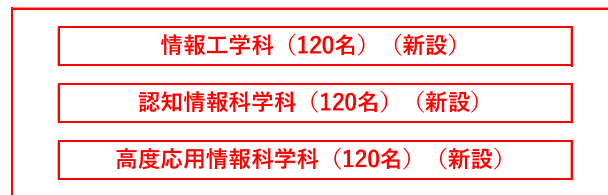
【再編前】

情報科学部（280名）



【再編後】

情報変革科学部（360名）（新設）



教育環境の整備

1. 進捗状況（フェーズ2～フェーズ3）

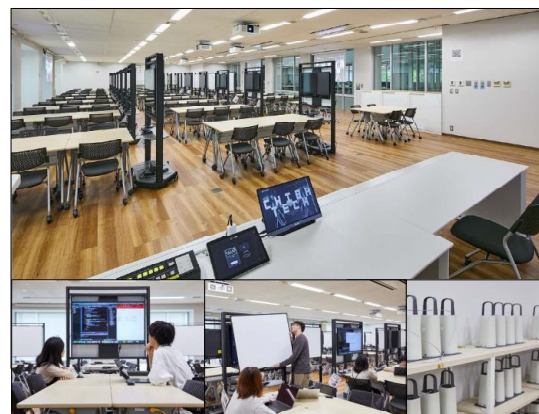
	新習志野キャンパス（1-2年生）	津田沼キャンパス（3-4年生・大学院生）
令和5年度（フェーズ2）	情報演習室整備 / 基幹LAN整備 GPGPUサーバー整備	
令和6年度（フェーズ2）		情報演習室整備 / 基幹LAN整備 GPGPUサーバー整備
令和7年度～（フェーズ3）		基幹LAN保守

2. 情報演習室整備

令和6年度新入生より個人PCの持ち込みが必須となったため、BYODに最適化した演習室を整備

【特徴】

- （1）スタンドセットの導入
津田沼・新習志野両キャンパスに **24台ずつ、計48台配備**
 - ①モニター・ホワイトボードを切替可能
→デジタル・アナログ双方のアイデア創出
 - ②モバイルバッテリー使用で **完全ワイヤレス化**
→モバイルバッテリーはPC等のデバイスにも給電可能
 - ③各スタンドにカメラを設置
- （2）机、椅子、スタンドセットを自由に移動可能
→**教室レイアウトに縛られない演習・グループワークを実現**
実際にアイデアソンやハッカソンの実践型授業で使用
- （3）キャンパス間を含む**双方向授業が可能**
→教室後方とスタンドセットに搭載したカメラを使用

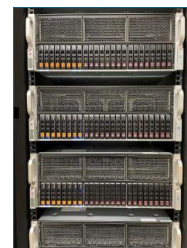


3. GPGPUサーバー整備

高度なAI・データ分析演習に対応するため、GPU仮想計算環境を両キャンパスへ整備

【特徴】

- ①各学年のAIプログラミング等の実践的演習に対応
- ②最大 **130名規模の演習**や卒業研究などの大規模演算にも対応が可能



事業計画名 帝京平成大学共創学部デジタル共創学科の新設

基本情報

設置年度	令和8年度	設置組織名	共創学部デジタル共創学科	入学定員（編入学定員）	99名（3年次 2名）
所在地	東京都豊島区	改組内容	学部の新設	収容定員	400名

<社会や地域のニーズ・課題>

「デジタル社会の実現に向けた重点計画(2023)」

- ・国民一人一人のデジタルリテラシー向上と専門的なデジタル知識・能力を持つ人材の育成・確保に取り組む
- ・高等教育機関である大学には、産業界のニーズを踏まえた数理・データサイエンス・AI教育の推進と、DX等成長分野に関するリカレント教育の推進を求める

<設置学部等の概要・コンセプト・特徴など>

- ・本学の強みを活かし、健康医療、スポーツ、ビジネス、メディアなどの多様な分野において、**デジタル技術の実践的な応用能力**を活用して**新しい価値を創出**できる人材を輩出し、地域・社会に貢献する
- ・開学以来一貫して実践している**実学教育**のノウハウに基づいた、**自治体や企業と連携した授業、実務経験のある教員による授業やインターンシップ**等を展開する
- ・低学年よりグループディスカッションやアクティブラーニングなどの手法を取り入れた**PBL型授業**を多数導入し、**少人数クラス**または**複数担当教員**によるきめ細かな指導を実施する

<教育内容・育成する人材像>

- ・デジタル技術の基本的な知識と実践的な応用力を身につけ、**健康医療、スポーツ、ビジネス、メディアの各分野の専門家と連携しながらデジタル技術を活用して新しい価値を創出する能力**を有する人材を育成する
- ・1年次では、デジタル技術の基礎と、それを健康医療、スポーツ、ビジネス、メディアの分野へ応用するための基盤的知識を学修し、2年次では、演習形式の授業を中心に、より発展的なデジタル技術の活用方法について学修する
- ・3年次では、分野ごとの実践的能力と課題解決力を修得するための科目やゼミナール科目に加え、インターンシップ科目を配置し、より実務的な応用力を身に付ける
- ・4年次ではゼミナール科目を通じて専門的な研究を一層深め、卒業研究としてまとめることで、自らの専門領域における知識と技術を総合的に活用し、実社会に適用する能力を養う
- ・学修目標の到達度はディプロマ・サプリメントやルーブリックなどにより評価し、**学修ポートフォリオ**に蓄積することで学修成果の可視化を図る

<連携を通じた教育体制の整備>

- ・**自治体や企業**との連携：DXの推進に携わる専門家によるPBL型授業やインターンシップなどを通して、最新の知識やデジタル技術について学修する
- ・**他大学**との連携：グループ校や数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに加盟している大学と連携し、デジタル分野の最新の知見や教授方法等について意見交換をする
- ・**海外の大学**との連携：連携協定に基づく国際交流プログラムを設定し、諸外国のデジタル技術や知識について理解する

<多様な入学者の確保>

- ・高校での説明会や模擬授業、個別相談会の実施、女子学生およびその保護者や留学生に向けたイベント等を実施し、多様な入学者の確保に努める
- ・留学生特別選抜を、日本国内のみならず上海、大連、広州、香港の4都市でも実施する
- ・社会人のリスクリングへの対応として、社会人選抜の実施や履修証明プログラムの修了者にはオープンバッジを発行する



取組① DXハイスクール採択校と連携し、高校生対象の出張授業を実施

- ・初等中等教育段階の学校との連携の取組みとして、DXハイスクールに採択されている帝京第三高校へ講師を派遣し、デジタルを活用した授業を実施
- ・月に1テーマ（各テーマは2回構成）を設定し、1年間で全20回の授業を実施
対象は、将来デジタル分野での活躍を目指す高校生
- ・共創学部デジタル共創学科に就任予定の教員を中心に、毎月各分野の専門家を派遣
実社会とのつながりを意識した特色ある授業を展開



成果 高校生対象の出張授業を年間20回実施し、地域のデジタル人材育成と高大接続の強化を推進した。

回	実施月	テーマ
1	4月	世界は「俺か俺以外」なのか？
2		データから原因を探る：統計的因果推論
3		情報の海に溺れないための泳ぎ方Ⅰ
4		情報の海に溺れないための泳ぎ方Ⅱ
5	5月	デジタルアーカイブを知ろうⅠ
6		デジタルアーカイブを知ろうⅡ
7	7月	デザインとは
8		何が心を動かすのか（質感）
9	9月	色のデジタル表現
10		いろいろなデータの可視化
11	10月	人体で計測される波の解析
12		特徴を絞り込む：次元削減
13	11月	どこでもドアは作れるかⅠ
14		どこでもドアは作れるかⅡ
15	12月	デジタルアーカイブを知ろうⅢ
16		デジタルアーカイブを知ろうⅣ
17	1月	文字は記号である（カタチ）
18		色には恣意性がない（色）
19	2月	生成AIの理解と活用
20		生成AIを活用した自己分析とキャリア形成

取組② 留学生を対象に入学説明会を実施

- ・多様な入学者の確保に向けた取組みとして、帝京平成大学附属日本語学校の生徒を対象に模擬授業および入学説明会を実施
- ・約60名の留学生が参加し、デジタル共創の考え方を知ってもらうため、共創学部デジタル共創学科に就任予定の教員がAIの仕組みに関する初歩的な講義を行い、デジタル技術を用いた課題解決の実例を紹介
- ・入試制度として留学生特別選抜を実施し、留学生の受入体制を強化



成果 留学生向け説明会を実施し、多様な入学者確保の基盤を構築した。

取組③ 新学部専用のキャンパス棟を新設

- ・池袋キャンパスに、オフィスビルをリノベーションした「MiNoRiネスト」を新設し、共創学部の専用キャンパス棟として2026年4月より始動
- ・SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」の観点から、循環型オフィスの概念を取り入れ、既存の天然木材の内装を活かしつつ、廃棄予定の家具などを改修し活用
- ・教室設備にはICT機器を全面導入し、教育研究用の高性能GPUサーバも設置



成果 最新ICT環境の新棟を開設し、デジタル教育と地域連携の拠点を整備。



事業計画名	愛知淑徳大学建築学部設置計画				
基本情報					
改組予定年度	令和 7 年度	設置等組織名	建築学部建築学科	入学定員増数 (合計数)	130名
所在地	愛知県長久手市	改組内容	学部の新設 (当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)	入学定員減数 (合計数)	170名

社会や地域のニーズ・課題

- ・人材のニーズ調査を行い、多くの企業などからの採用意向有り
- ・企業や行政に携わる方々と意見交換・聴取を実施
- ・建築、インテリア、都市計画、まちづくりなどにおける諸問題に取り組む人材を要望

設置学部の概要・コンセプト・特徴など

- ・「建築・まちづくり」から「住居・インテリア」まで幅広いスケールで、人と環境の関わりを構想 (「建築・まちづくり専攻」と「住居・インテリアデザイン専攻」の2つの専攻制を設定)
- ・大学理念「違いを共に生きる」を「建築学」の分野に反映

教育内容・養成する人材像

- ①幅広い進路選択が可能な学び
- ②地域連携、産学官連携などによる実践的な学び (フィールドワーク、アクティブラーニング、PBLなどの推進)
- ③建築 (環境系、構造系、計画系、設計系) を中心とした様々な幅広いスケールの学び
- ④建築を基軸とした歴史から学び、未来へ向けて創造する「チカラ」の醸成
- ⑤工学系だけでなく、芸術系や家政系を包括した学びからなる多様な人材の育成
- ⑥建築学部の基礎となる既設学部・学科 (専攻) からの連携と続く社会貢献できる人材の輩出の拡張・深化
- ⑦実社会の諸問題の解決及び持続可能な社会の実現に貢献する人材の養成

連携を通じた教育体制の整備

- ・企業などと連携し、有名建築家と共同する授業
- ・建築会社や設計事務所など、実務経験のある教員などによる実社会を感じる授業
- ・近隣市町村と連携した「まちづくり」や「防災計画」を構築する実践教育

多様な志願者・入学者の確保

- ・令和 6 年度入試～
新たな入試制度・形態の導入 (「大学理念・違いを共に生きる入試」)
- ・令和 7 年度入試～
公募制推薦入試や一般入試における理系科目の選択肢追加
⇒ 理系科目を得意とする受験生への優遇 (理系学生の受験機会増)



特色ある取り組み 前身学部である創造表現学部 創造表現学科 建築・インテリアデザイン専攻における取り組みを紹介

著名な建築家とコラボするデザインワークショップ
3年次の「デザインワークショップ」では、「1010ギャラリー」(愛知淑徳大学)やオリジナルの建築展覧会を企画・開催しています。日本を代表する建築家・建築士・会社員から第一・第二・第三まで学生主体で行います。建築学部では、こうした実践の場を豊富に用意しています。

築100年以上の古民家を書庫兼アトリエとして再生
岐阜県羽市に100年以上前に立てられた診療所のリノベーションに、建築設計を学ぶ学生たちが挑戦しました。測量と現地調査、依頼者ヒアリングなどを行って、書庫兼アトリエにするプランを提案。地元工務店による施工に学生も参加して完成させました。地域との連携による実践的教育を建築学部でも取り入れる予定です。

大学・高専機能強化支援事業における特徴ある取組

産学連携による実践的な学び

愛知淑徳大学では、毎年学部 3 年生が主体となって建築展の展示会場の会場計画から施工、運営まで行っており、例年東京乃木坂の TOTO ギャラリー・間で行われた展示会の巡回展を招致している。2025 年度は能作文徳 + 常山未央展「都市菌 (きのこ) - 複数種の網目としての建築」愛知巡回展が行われた。



展示会概要
 計画期間: 2025 年 4 月～7 月
 施工期間: 2025 年 8 月
 展示会開催期間: 2025 年 8 月 30 日 (土)～9 月 14 日 (日)
 開催場所: 愛知淑徳大学 長久手キャンパス 8 号棟 5 階 展示室

展示会場で使用された材料はほとんどが再利用される。展示物の一つである監書庫は伝統構法でつくられ、展示会後に解体され東京科学大学能作研究室に移築、活用されている。

2025 年度日本建築学会教育賞 (教育貢献) を受賞
 長年にわたる愛知淑徳大学の建築展と学生による会場計画、施工の実績が認められ、「展示会場の設計・施工実践教育プログラム～TOTO ギャラリー・間巡回展を中心とした建築展を題材として～」が 2025 年度日本建築学会教育賞 (教育貢献) を受賞した。

贈呈式 (2025 年 5 月 30 日)

建築家による講演会

愛知淑徳大学開学 50 周年と建築学部開設を記念し、2025 年 7 月 19 日 (土) に講演会「万博: 多様性とながら 藤本杜介 Sou Fujimoto」が開催された。2025 年 4 月から 10 月にかけて開催された大阪・関西万博において会場デザインプロデューサーを務めた建築家藤本杜介氏に登壇いただき、学内外から多くの聴衆にご来場いただいた。



海外学生との交流

2025 年 9 月 18 日 (木)～21 日 (日)、ポーランドのワルシャワ技術・経済大学から野崎先生と建築専攻の学生が来学し、本学建築学部の Pietro Vecchi 先生のゼミ生との国際交流が行われた。8 号棟や建築 ANNEX 棟などの建築学部施設を見学したり、互いの研究発表を行うなどして、建築を通じて相互理解を深める機会となった。

